

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

◆8月の発行は、8日号、22日号、29日号です。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース ■3面 原水爆禁止2026年世界大会国際会議宣言／公営水道が危ない ■4面 健康体操／ホットライン ■5面 憲法講座／ホットライン ■6面 安全な化粧品とは？／母の歴史 ■7面 読者のページ／まんが／短歌



女性のつどいに590人

日本語、英語、韓国語で「戦争反対、核兵器なくせ」とコール (5日 核兵器なくそう女性のつどい・詳報8月29日号)

主な日程

- 3・4日 国際会議
- 4～6日 世界大会—広島
- 5日 フォーラム、分科会、核兵器なくそう女性のつどい2026 inヒロシマ、反核平和ペンライト行動
- 6日 ヒロシマデー集会
- 8・9日 世界大会—長崎
- 8日 海外代表との交流のつどい
- 9日 ナガサキデー集会



1人ひとりの思いを持ち寄ったペンライト行動 (5日 広島)

世界と連帯し共同広げよう

核兵器も戦争もない世界へ

原水爆禁止2026年世界大会 8月3日～9日

非核三原則 堅持を

今年の世界大会は、核保有国が核軍備の増強と近代化を進め、軍拡競争が激しさを増していることに對し、市民社会が声をあげ、とりわけ若い世代が立ち上がっていることが共通して語られました。

核兵器禁止条約への批准・署名は100カ国となり、国連加盟国の過半数を超え、世界の主流として着実に前進しています。日本では核兵器禁止条約への参加を求める意見書が756自治体に広がり、高市政権発足後、非核三原則堅持を求める意見書が急増し、128自治体が決議しています。しかし高市首相は、8月6日の広島平和記念式典、9日の長崎平和祈念式典でも、核兵器禁止条約にふれないどころか、「非核三原則」について「堅持している」と現状を述べるにとどまり、アメリカの核兵器を持ち込めるよう見直したというねらいを隠そうともしません。

「核抑止」からの脱却を

大会には、中満泉国連事務次長が「私たち市民は、核兵器を廃絶する力と責任を持つている」と動画で発言。核兵器禁止条約を推進するオーストリア、メキシコ、キューバの政府代表が参加しました。

抑止力への依存そのものが、人類の生存に対する脅威」と強調し、メキシコのエンリケ・ハビエル・オチョア・マルティネス外務副大臣は「日本を含む多くの国々が核兵器禁止条約に参加してほしい」と発言。ヒセラ・ガルシア駐日キューバ大使は「世界の資源は戦争や経済的な締め付けではなく、生命、健康、開発に」と訴えました。

千葉県で記録的豪雨

〈2面へ〉



舞台いっぱいになんだ新婦人次世代会員と子どもたち (6日 ヒロシマデー集会)

